

令和2年度 県立清武せいりゅう支援学校 学校評価

(評価基準 A：良い B：概ねできている C：努力が必要 D：改善すべきである)

1 学校運営	関係者評価
<p>① 学校経営方針や教育目標・努力事項を踏まえた取組ができているか。</p> <p>② 諸会議が検討、確認、共通理解の場となるよう努めたか。(職員会議、運営委員会、各種委員会など)</p> <p>③ 職員間の連携を密にして組織的・協力的に取り組んだか。</p> <p>④ 災害や緊急時に対応する危機管理体制を整えているか。</p>	A
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○職員アンケートの1-①では 85.4 %が学校経営方針や教育目標・努力事項を踏まえた取組ができていると回答。</p> <p>○各種委員会を組織して、定期的な課題検討や不定期による迅速な課題等への対応を行い、校務分掌部との役割分担による適切な業務遂行に努めた。組織した各種委員会は「教育課程編成委員会」「教科書選定委員会」「校内就学相談委員会」「人権教育推進委員会」「修学旅行検討委員会」「スクールバス運行委員会」「学校保健委員会」「衛生委員会」「医療的ケア支援委員会」「研究推進委員会」「進路指導委員会」「ICT教育推進委員会」「給食運営委員会」等である。</p> <p>○「防災対策推進委員会」は毎月の運営委員会においてその都度検討事項を協議した。運営委員会は各校務部主任および各学部主事が出席しており、避難訓練の在り方や、災害等に対する備蓄などを含めた災害対策全般の在り方を検討し、非常時に備えることができた。</p> <p>●各職員の働き方改革が進むように業務を整理したり、一部に業務の負担が偏らないように学級担任と校務分掌部の配置を工夫したりすることが課題である。また、各学部や校務部の間の連携がとれるように組織の在り方を検討していく必要がある。</p> <p>●感染症対策については、継続して緊張感を持ちながら対応していく必要がある。</p>	【自己評価】 B

2 学部関連	関係者評価
<p>① 学部経営の目標や努力事項を踏まえた実践に努めているか。</p> <p>② 学部の児童生徒の実態に応じた計画的で適切な学習活動やグループ学習、行事等を学部で取り組んでいるか。</p> <p>③ 学部会が必要な事項の検討、確認、共通理解や意見交換の場となるよう努めているか。</p> <p>④ 児童生徒の障がいの状態や発達段階等の共通理解を図って協力体制はできているか。</p>	A
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○各学部主事が教育課程ごとに編成されている検討会を活用し、効果的・効率的な学部運営に努めた。</p> <p>○職員アンケートの2-②では 93.6 %が学部の児童生徒の実態に応じた計画的で適切な学習活動やグループ学習、行事等を学部で取り組んでいると回答。</p> <p>○各学部で新型コロナウイルス感染症への配慮をしながら学習活動やグループ学習、行事等を精選して実施したことにより、学級を越えた友達同士の関わりも見られるようになった。また、指導の積み重ねにより、児童生徒の生活習慣の面でも成長することができた。</p> <p>○各学部の会議においては、各学級の児童生徒の健康状態や学習状況などについて情報を共有し、指導方法について話し合うことにより、各教科や学級の指導に活かすようにした。</p> <p>●各学部でグループ学習や行事等を適切に実施するなどして、指導を継続していく事が重要である。</p>	【自己評価】 B

3 校務部関連	関係者評価
① 校務分掌部等の目標や努力事項を踏まえた実践に努めているか。 ② 児童生徒の実態に応じた計画的で適切な教育活動等を校務部で取り組んでいるか。 ③ 校務部会が必要な事項の検討、確認、共通理解や意見交換の場となるよう努めているか。	A
(実際の取組と成果・課題) ○校務分掌組織は「教務部」「生徒支援部」「保体安全部」「研修部」「進路支援部」「地域連携部」「自立サポート部」で役割分担して業務にあたった。職員アンケートの3-①によると、87.2%が校務分掌部等の目標や努力事項を踏まえた実践に努めていると回答した。 ●児童生徒の実態に対応した教育課程を編成することを継続して行っていくことが課題である。 ●各校務部の業務内容や係分担について検討していく必要がある。 ●学校行事等について、それを行う目的や意義を再検討し、感染症対策を講じながら実施していく方法などを検討していく必要がある。	【自己評価】 B

4 学級関連の教育活動や指導・支援	関係者評価
① 学級の児童生徒の実態に応じた計画的できめの細かい学習指導が実施できているか。 ② 保護者と情報交換や共通理解を図って、連携・協力を努めたか。 ③ 児童生徒の実態に基づいて個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成、共有し、指導に活かしているか。 ④ 児童生徒の人権を尊重した教育活動に努めているか。 ⑤ 児童生徒の実態に応じた教科・領域の授業の計画や実践ができたか。 ⑥ 学習効果を上げるための教材・教具の工夫と活用に取り組んでいるか。 ⑦ 児童生徒の実態に応じて将来を見通した生活面の指導・支援を行っているか。 ⑧ 自立活動は、実態把握を基に、個に応じた適切な指導がなされているか。	A
(実際の取組と成果・課題) ○保護者アンケートの1では91.1%が、子供の指導について学校や学部・学級と家庭との連携はうまくとれていると回答。 ○学級通信を各学級担任が保護者に配付した。児童生徒の学習の様子を、見ただけで分かるように写真を掲載するなどして分かりやすく伝える学級通信の作成に努めた。 ○訪問教育学級は現在、全学部に在籍している。在宅の訪問教育では家庭へ訪問して授業を行いながらスクーリングを行い、通学生との合同学習を実施した。せいりゅう祭にも参加して、映像や音声で出演した。児童生徒の健康状態に配慮しながら、保護者に寄り添う姿勢で対応に努めた。また、宮崎大学医学部附属病院と県立宮崎病院に入院している児童生徒に対して病院内の教室やICTを活用したリモートで授業を行っている。 ○人権標語やポスターの作成に多くの児童生徒が取り組んだ。また、人権啓発の資料を多くの学級で活用していた。人権への配慮として、児童生徒への呼名は「さん」をつけるように職員で統一している。 ●各学部の教育課程ごとに学習グループを編成し、児童生徒の興味・関心や実態等に応じた合同学習の計画的な実施に努めた。各学習グループで校外学習を計画したが、新型コロナウイルス感染症に係る感染拡大緊急警報の発出により、実施できない学級が半数程度あった。 ●職員アンケートの4-⑤⑥⑧によると、約20%の職員が児童生徒の実態に応じた指導をさらに充実させることができると感じている。学部や校務部の組織や職員研修など、学校全体で取り組んでいくことが重要である。 ●個別の指導計画・通知表の様式は前年度に比べて簡略化できたが、引き続き使用しながら	【自己評価】 B

改善点を検討していきたい。

5 保健・安全面	関係者評価
<p>① 児童生徒の健康状況について、保護者やセンター及び保健室との連携を図ったか。</p> <p>② 清潔面、衛生面及び安全面に配慮して日々の指導を行うことができたか。</p> <p>③ 食事や水分補給、トイレ支援等は、安全にできたか。</p> <p>④ 児童生徒の健康状態を把握して、健康管理や状態維持に努めたか。</p> <p>⑤ 医療的ケアは看護師と連携して安全安心に実施されているか。</p> <p>⑥ ヒヤリハット事例について全職員で情報を共有し、再発防止や重大事故の予防に活かしているか。</p> <p>⑦ 施設・設備や教材・教具等の安全点検や安全な活用がなされているか。</p> <p>⑧ 緊急対応等のマニュアルを理解し、緊急時や危機管理に備えているか。</p> <p>⑨ 『防災対策プラン』の整備と充実に取り組んで、活用に努めたか。</p> <p>⑩ 安全面を十分考慮して、学習及び行事の実践がなされているか。</p>	B
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○医療的ケア対象の児童生徒の学級や学習グループでは、学習活動内容・場所の選定や医療的ケアの実施方法等も併せて検討し、保護者やこども療育センターと連携し、安全な実施に努めた。医療的ケア対象で修学旅行に参加予定の児童生徒については、校外学習でスクールバスを利用して乗車を経験する機会を設けた。</p> <p>○感染症に罹患した場合、重症化の危険性が高い児童生徒が多く在籍していることから、学校全体で衛生環境等について情報を共有するなどの対応に努めた。</p> <p>○新型コロナウイルスの感染状況により、集団での学習や校外での学習活動を控えるなどの指導体制の工夫、外来者の制限等の対応を行い、感染予防及び感染拡大の防止に努めた。</p> <p>○文部科学省の事業で、人工呼吸器の管理を必要とする生徒の保護者待機解除に関する研究に取り組んだ成果を元に、人工呼吸器ガイドラインや緊急対応マニュアルの検証を行った。対象となる小学部2年生児童の保護者待機を段階的に解除した。</p> <p>●医療的ケア対象児童生徒の医療的ケアについて、教職員と看護師との連携を図る体制をとっているが、看護師の体制や動きについては今後も検討していく必要がある。</p> <p>●実際に地震災害が起こった後の対応などを具体的に考え、実践する機会が必要である。</p> <p>●「防災対策プラン」はほぼ完成しているが、感染症対策を付加していく必要がある。</p>	【自己評価】 B

6 進路指導	関係者評価
<p>① 児童生徒の自己理解・職業理解を図るための計画的な進路学習に取り組んでいるか。</p> <p>② 児童生徒の進路について、保護者や関係機関との連携をとっているか。</p> <p>③ 進路に関する情報収集や提供を行っているか。</p>	B
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○年度初めに全校児童生徒を対象として行った「進路希望と福祉サービスについての調査」をもとに、児童生徒のニーズや将来に向けての希望を把握した上で、「現在の学校生活や学習に関する相談支援」と「将来の生活に向けての進路指導」とが連続したものになるよう、外部機関と連携をとりながら指導と支援を行った。</p> <p>○年2回の進路セミナー、月1回の情報紙発行、ホームページ等により進路指導に関する情報発信を行った。また、高等部2、3年生で行う「進路相談会」と、卒業前に行う「支援担当者会議」では、相談支援事業所や利用する福祉サービス事業所の協力も得て、本人の実態やニーズを共通理解した上で、社会生活への円滑な移行ができるよう努めた。</p>	【自己評価】 B

<p>○卒業後の社会生活に向けて、施設見学を随時行った。また、高等部では、地域の福祉サービス事業所に協力を頂き、3年間で合計6回以上の施設見学と現場実習を計画し、実際に見たり体験したりする中で、卒業後の生活に対するイメージを持ち、同時に事業所の方にも、本人の実態やニーズについて理解していただく機会としている。</p> <p>●保護者アンケートの4では9%が計画的で将来を見通した指導・支援についての努力が必要と回答。児童生徒一人一人の状況や自己理解に基づいた具体的で適切な、将来を見通した進路の指導が求められる。</p> <p>●在学中の環境と卒業後の環境が大きく変わることもあるので、様々な環境で過ごすことを想定したり、障がいの状況や年齢の変化などを念頭に置いた指導を検討する必要がある。</p>	
--	--

7 職員研修	関係者評価
<p>① 児童生徒の実態を踏まえた効果的な指導法等の研究や改善に努めたか</p> <p>② 校内研究において、研究主題に沿ったグループ研究を深化させているか。</p> <p>③ 専門性向上研修等の各種研修を指導や授業実践に活かすことができたか。</p> <p>④ ICT 機器や情報機器を活用した指導に取り組んでいるか。</p> <p>⑤ 自らの専門性を高めるために、各種研修に参加しているか。</p>	B
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○全職員を対象として、肢体不自由教育に関する基礎的・基本的内容の研修を4月から6月にかけて実施した。研修内容は、身体の動かし方の基本や摂食指導等、自立活動の具体的な実践についてであり、他に、医療的ケア、情報教育などについても研修した。</p> <p>○校内研究においては、研究主題を「児童生徒の主体的な学びを支える指導実践の在り方」として、授業力の向上を図った。各班で理論研究や授業研究を実施した。</p> <p>●感染症対策のため、外部講師を招聘する事ができなかった。</p> <p>●職員アンケートの7-④によると、34.2%がICT機器や情報機器を活用した指導を充実させていくことが必要だと感じている。</p> <p>●保護者アンケートの5では10.7%が教師の専門性について努力が必要と回答。校内研修において、実施内容や時期などを検討する必要がある。</p>	【自己評価】 B

8 交流及び共同学習	関係者評価
<p>① 学校間交流は、相手校との共通理解の下、効果的に実施できているか。</p> <p>② 居住地校交流は、保護者及び相手校との共通理解の下、効果的に実施できているか。</p>	B
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○学校間交流、居住地校交流は、作品展示による間接交流とした。</p> <p>●感染症対策を講じた上での交流学习のあり方について検討する必要がある。</p>	【自己評価】 C

9 関係機関との連携	関係者評価
<p>① こども療育センターと連携した指導・支援に努めたか。</p> <p>② 福祉サービス事業所等との連携に努めたか。</p> <p>③ 学校ホームページの更新や活用に努めたか。</p> <p>④ 関係機関（教育、福祉、医療、行政等）との連携はとれているか。</p>	A
<p>(実際の取組と成果・課題)</p> <p>○こども療育センターと毎月の連絡会を設け、情報を共有している。</p> <p>○行事や活動の様子を各学部のホームページに、随時掲載するように努めた。</p>	【自己評価】 B

○感染症への対応について保護者の御理解と御協力を得ながら、こども療育センターや事業所、スクールバス運営会社とも情報交換や連携を図った。

●登下校の送迎や、放課後・休日の過ごし方、卒業後の生活、災害時の連携・協力などについて、福祉事業所、福祉施設とさらなる連携を深めていく必要がある。

●職員アンケートの9-③によると、30.8%が学校ホームページの更新や活用に努める必要があると回答している。

【学校関係者評価委員からの具体的意見】

○職員アンケートでは、職員研修や交流及び共同学習で<不十分>と答えている方が数%いるのに対し、60%程度は<できている>と答えている。これは、職員への個別支援の必要性があるという課題でしょうか。

・保護者アンケートでは、児童が学校に行くことを楽しみにしていると職員の挨拶服装は、全ての保護者が<大変良い/良い>と答えている。学校方針や各先生方の教育の成果だと思います。課題としては、14.9%が<もう少し/努力が必要>と答えている、「保護者間の連携」への支援でしょうか。個人差もあり難しい問題ですが、重要だと考えます。

・センターとは、連絡会や担任、保健室との情報交換がなされている。ただ、色々な職種による価値観等の違いなどはありますが、個人情報を守りながらも密な連携や協議が今後も必要になると思います。

・当センターの治療(療育)に欠かせない学校だと思います。今後もよろしく御願います。

○コロナの影響を受けた1年だったでしょうが、子供達にとっては学校外の人たちとの交流はとても意義のあることだと思うので、今後開かれた学校をより目指してほしいと思います。

○大変な1年だったと思います。せいりゅう祭の時に生徒の皆さんや先生方の活力を感じたところでした。

○コロナのため、学校運営は多くの苦労があったと推察します。学校での感染拡大などが起きず、何事もなく1年を終えられるだけでも大変良かったと思います。